

昔々、ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんとおばあさんは、貧しかつたけれど、幸せに暮らしていました。

冬が近いある日、おじいさんはいつものように森へ小枝をとりに行きました。森の上に広がる青い空に、一羽の鶴が大きく羽を広げて飛んでいました。

「なんて美しい鳥なんだろう。」

と、おじいさんは鶴を見ていました。

すると、鶴は急に「カウカウ」と鳴きながら、畠の方へ落ちていきました。おじいさんは、急いで畠へ走つて行きました。

畠には鶴が苦しそうにもがいています。おじいさんが近寄つてみると、羽に矢がささっています。おじいさんは矢をぬいて、近くの小川で傷口を洗つてあげました。



鶴は、うれしそうにおじいさんの方を見てから、空に舞い上りました。そして、おじいさんの頭の上をゆっくりと二回まわって、山の方へ飛んで行きました。

おじいさんは家に帰つて、おばあさんに鶴のことを話しました。

「まあ、それはよいことをしましたね。」

と、おばあさんも喜びました。